

青春スクロール

母校群像記

<http://t.asahi.com/dnnn>

「異端」排除せず 芸術・文化の世界に

多摩高校の卒業生は芸術・文化の世界でも活躍する。

国内外で数々の受賞歴がある石彫作家の井上妻（58、1975年卒）。2年の美術の時間、みんながデザインや油絵を選ぶ



「彫るのではない。いらない部分をどかすお手伝いをしているのだ」と話す井上



多摩高校 6

中で、井上だけは「彫刻をやりたい」と先生に訴え、地下倉庫に眠る粘土で作品をつくった。人と違うことをするのは楽しく、「体や手を動かす、触覚を生かした仕事をした」とと美術家への道を決めたという。

ジャズピアノリストの国府弘子（54、78年卒）は3歳からピアノを学んでいたが、「音楽だけに偏りたくない」との思いを胸に入学した。茶道部の部長に、体育祭ではミニスカート姿でチアリーダーも経験。大学時代は教員免許取得のため多摩高で教



「卓球部の女子5人で交換日記をしていた」という長野

育実習もした。「人と人との交流ができた。思い描いていた世界が、多摩高にはあった」

鴻上尚史主宰の劇団「第三舞台」で脚光を浴び、俳優として活躍する長野里美（52、80年卒）は小、中学校も演劇部だった。ところが多摩高には演劇部がなく、卓球部に。「子どもの頃



生徒の他の生徒より長い法被を着たという日下

頃は体が弱かったのに、おかげで基礎体力と根性がついた」。詩や小説、漫画の同人誌を作り、3年の文化祭では坂口安吾の作品を元にした舞台で脚本、演出、主演をこなした。

その長野に影響を受けたのが、舞台や時代劇、現代劇、アニメや映画の吹き替えなど幅広く活躍する俳優の目下由美（51、81年卒）。合唱部員だったが、2年の時に先輩の長野が演じる舞台を見て演劇同好会をつく

り、3年の文化祭では別役実脚本の「マツチ売りの少女」の主人公を演じた。「お祭り好きなので、文化祭や体育祭など楽しかった」と振り返る。

「Jドリーム」などスポーツを題材にした作品で知られる漫画家の堀内夏子（53、79年卒）は、2歳上の姉も多摩高生。「姉ちゃんに負けるもんか」と入学し、ワンダーフォーゲル部で活動した。その時の経験が、登山漫画を描くきっかけに。

「不良やツッパリのような『思春期の闇』みたいなものは、多摩高にはなかった」と言う。

「メイちゃんの執事」が人気の漫画家、宮城理子（44、88年卒）は私立高校にも合格した

が、親から「県立高に行けば、お小遣いをあげる」と言われて多摩高に入ったという。部活は漫画研究会。「異端な人を排除せずに『面白いね』と受け入れる校風。自由でゆったりしていた。その空気感は、今の作品に反映しているかもしれない」

長野は8月9日～9月15日、渋谷のパルコ劇場で三谷幸喜作・演出のコメディ「君となら」で、草刈正雄と夫婦役を演じる。前売りは今月21日から。問い合わせは同劇場（03・3477・5858）。日下は28日午後10時からNHK-FMラジオで、秋田県能代市が舞台のオーディオドラマ「防砂林」に出演する。